

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 75 問で解答時間は正味 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) 各問題には 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

(例 1) 101 斜視角の測定法はどれか。

1. アノマロスコープ
2. Frisby stereo test
3. Hirschberg 法
4. logMAR 値測定
5. PL 法

(例 2) 102 斜視角の測定法はどれか。2 つ選べ。

1. アノマロスコープ
2. Krimsky 法
3. Hirschberg 法
4. logMAR 値測定
5. PL 法

(例 1) の正解は「3」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④	⑤
			↓		
101	①	②	●	④	⑤

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	→ ●
④	④
⑤	⑤

(例 2) の正解は「2」と「3」であるから答案用紙の ② と ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	①	②	③	④	⑤
			↓		
102	①	●	●	④	⑤

答案用紙②の場合、

102	102
①	①
②	●
③	→ ●
④	④
⑤	⑤

- (2) ア. (例 1) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。
- イ. (例 2) の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。







1 神経線維が網膜神経節細胞の軸索でないのはどれか。

1. 視 索
2. 視交叉
3. 視放線
4. 眼内視神経
5. 眼窩内視神経

2 副腎皮質ステロイドの副作用でないのはどれか。

1. 白内障
2. 緑内障
3. 糖尿病
4. 角膜潰瘍
5. 網膜静脈閉塞症

3 脳幹に含まれるのはどれか。2つ選べ。

1. 橋
2. 頸 髄
3. 延 髄
4. 小 脳
5. 基底核

4 病院内の事象について正しいのはどれか。

1. インシデントは重大事件に発展する危険性をもつ。
2. アクシデントレポートはヒヤリハット報告書と同義語である。
3. 病院の廊下で転倒し骨折した場合にはアクシデントにあたらない。
4. 原疾患の自然経過であっても死亡すれば最重度のアクシデントになる。
5. 医療行為前に間違いに気づき実害がなければインシデントにあたらない。

5 自己免疫疾患でないのはどれか。

1. 視神経脊髄炎
2. 重症筋無力症
3. 網膜色素変性
4. Sjögren 症候群
5. Vogt-小柳-原田病

6 アレルギーによる痒みに関係するのはどれか。

1. アセチルコリン
2. セロトニン
3. ドパミン
4. ノルアドレナリン
5. ヒスタミン

7 羞明に対して有効なのはどれか。

1. 単眼鏡
2. 縮小レンズ
3. タイポスコープ
4. 手持ち式拡大鏡
5. ハイパワープラスレンズ眼鏡

8 X 染色体連鎖性の疾患はどれか。

1. 小口病
2. 先天無虹彩
3. 先天赤緑色覚異常
4. Leber 遺伝性視神経症
5. 慢性進行性外眼筋麻痺

9 随意筋はどれか。2つ選べ。

1. 眼輪筋
2. 瞼板筋
3. 上眼瞼挙筋
4. 瞳孔括約筋
5. 瞳孔散大筋

10 再生しないのはどれか。

1. 視神経
2. 動眼神経
3. 滑車神経
4. 三叉神経
5. 外転神経

11 光干渉断層計(OCT)について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 遠赤外光を使っている。
2. 黄斑部以外は測定できない。
3. 網膜の厚さの測定が可能である。
4. 正常者の黄斑部は陥凹して見える。
5. 軽度の白内障で測定は困難になる。

12 視力0.2のLandolt環の切れ目視角[分]はどれか。

1. 0.1
2. 0.5
3. 1
4. 5
5. 10

13 遠点が2 m、近点が50 cm の場合の調節力[D]はどれか。

1. 0.5
2. 1.0
3. 1.5
4. 2.0
5. 2.5

14 疾患と視野の組合せで正しいのはどれか。

1. 緑内障 ————— 中心暗点
2. 下垂体腫瘍 ————— 同名半盲
3. 網膜色素変性 ————— 管状視野
4. 虚血性視神経症 ————— 水平半盲
5. 視神経炎 ————— 求心性視野狭窄

15 疾患と検査の組合せで正しいのはどれか。

1. 白内障 ————— EMG
2. 視神経炎 ————— VEP
3. 網膜剥離 ————— ENG
4. 網膜静脈閉塞症 ————— EOG
5. 開放隅角緑内障 ————— ERG

16 外眼筋について正しいのはどれか。

1. 平滑筋である。
2. 内直筋は後転しても運動制限は生じない。
3. 強度近視眼ではプリーの位置異常がみられる。
4. すべての筋は Zinn 総腱輪を起始部としている。
5. 強膜への付着部は外直筋が最も角膜輪部に近い。

17 輻湊けいれんについて正しいのはどれか。

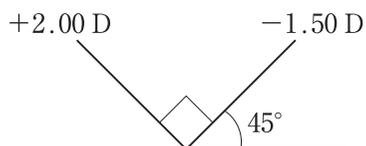
1. 散瞳する。
2. 外斜視となる。
3. 眼瞼下垂を合併する。
4. 調節けいれんを合併する。
5. Parinaud 症候群で生じる。

18 麻痺性斜視で第1偏位が第2偏位より小さいことを示す法則はどれか。

1. Knapp の法則
2. Hering の法則
3. Listing の法則
4. Donders の法則
5. Sherrington の法則

- 19 標準的な正視眼が1 D 近視化した場合の眼軸長の変化[mm]はどれか。
1. 0.1
  2. 0.3
  3. 0.5
  4. 0.8
  5. 1.0
- 20 2 m の距離で基底方向に像が5 cm ずれる場合のプリズム度数[Δ]はどれか。
1. 1.0
  2. 2.5
  3. 5.0
  4. 7.5
  5. 10.0
- 21 点眼麻酔を必要とする涙液検査はどれか。
1. 綿糸法
  2. Schirmer 試験 I 法
  3. Schirmer 試験 I 変法
  4. Schirmer 試験 II 法
  5. 涙液層破壊時間(BUT)

22 レンズの度を示す。



これに相当するレンズの組合せはどれか。

1.  $-1.50\text{ D} \text{ cyl} + 3.50\text{ D } 135^\circ$
2.  $+2.00\text{ D} \text{ cyl} - 3.50\text{ D } 45^\circ$
3.  $+2.00\text{ D} \text{ cyl} - 0.50\text{ D } 135^\circ$
4.  $\text{cyl} + 2.00\text{ D } 45^\circ \text{ cyl} - 1.50\text{ D } 135^\circ$
5.  $\text{cyl} + 2.00\text{ D } 135^\circ \text{ cyl} - 1.50\text{ D } 45^\circ$

23 点眼薬に含まれる防腐剤の副作用はどれか。2つ選べ。

1. 眼瞼炎
2. 眼圧上昇
3. 水晶体混濁
4. 角膜上皮障害
5. 網膜色素沈着

24 固定式眼底カメラについて誤っているのはどれか。

1. 直像である。
2. リング照明である。
3. 対物レンズの汚れは黒く写る。
4. 散瞳型眼底カメラでは5～6 mmの瞳孔径が必要である。
5. 視度調節はフォーカシングスクリーン上にピントが合うように調節する。

25 Goldmann 視野計で動的量的視野測定を行った結果(別冊No. 1)を別に示す。

A の暗点を測定した視標はどれか。

1. V / 4
2. II / 4
3. I / 4
4. I / 3
5. I / 2

別 冊

No. 1

26 限界フリッカ(中心フリッカ)検査の結果に影響しないのはどれか。

1. 年 齢
2. 瞳孔径
3. 屈折矯正
4. 検査距離
5. 背景輝度

27 超音波 A モードで測定しないのはどれか。

1. 角膜厚
2. 眼軸長
3. 網膜厚
4. 水晶体厚
5. 前房深度

28 点眼薬はどれか。2つ選べ。

1. インドシアニングリーン
2. エドロホニウム塩化物
3. チモロールマレイン酸塩
4. フェニレフリン塩酸塩
5. フルオレセインナトリウム

29 検査と正常範囲内の値との組合せで正しいのはどれか。

1. 回旋偏位の感覚融像域 ————— 3°
2. 眼 圧 ————— 5 mmHg
3. 眼瞼挙筋機能 ————— 7 mm
4. 上下偏位の感覚融像域 ————— 11°
5. 輻湊近点 ————— 19 cm

30 眼科検査器具(別冊No. 2)を別に示す。

この器具で定量できるのはどれか。2つ選べ。

1. 黄斑偏位
2. 回旋偏位
3. 上下偏位
4. 水平偏位
5.  $\gamma$  角

別 冊

No. 2

31 倒像鏡検査で正しいのはどれか。

1. 集光レンズを用いる。
2. 直像鏡より視野が狭い。
3. 直像鏡より倍率が高い。
4. 上下は逆転するが左右は逆転しない。
5. レンズ板を回してピントを合わせる。

32 4プリズム基底外方試験に関係しないのはどれか。

1. 複 視
2. 抑 制
3. 融 像
4. 調節力
5. Hering の法則

33 Hess 赤緑試験が測定できないのはどれか。

1. 斜 位
2. 斜 視
3. 交代性上斜位
4. 網膜対応欠如
5. double elevator palsy

- 34 両眼注視野検査で測定できるのはどれか。
1. 複像間距離
  2. 周辺視野の広さ
  3. ひき運動の範囲
  4. 運動性融像の限界
  5. 眼筋の最大可動域
- 35 患者とのコミュニケーションで適切なのはどれか。2つ選べ。
1. 患者が発した言葉を遮る。
  2. 語尾まで明瞭に発音する。
  3. 聞き取りにくい声の大きさを話す。
  4. 専門用語を用いて検査の説明をする。
  5. 患者の訴えに応じてうなずきながら聞く。
- 36 角膜トポグラフィについて誤っているのはどれか。
1. 正乱視の評価ができる。
  2. 不正乱視の評価ができる。
  3. 角膜の屈折力を測定している。
  4. 測定にマイヤー像(環)を利用している。
  5. 青色は角膜の屈折力が強いことを示している。

37 Adie 症候群について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 縮瞳を伴う。
2. 眼瞼下垂を伴う。
3. 近見反応は保たれる。
4. 膝蓋腱反射が減弱する。
5. 直接対光反射が正常である。

38 正常眼圧緑内障で正しいのはどれか。

1. 閉塞隅角である。
2. 角膜径が拡大する。
3. 悪心と嘔吐とを伴う。
4. 日本人に少ない病型である。
5. 視神経乳頭陥凹の拡大を伴う。

39 緑内障の視野障害で誤っているのはどれか。

1. 鼻側階段を生じる。
2. 弓状暗点を生じる。
3. 早期は自覚に乏しい。
4. 眼底所見と対応する。
5. 固視点は障害されやすい。

40 網膜色素変性で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 輪状暗点を生じる。
2. 停止性夜盲である。
3. ERG は正常である。
4. 網膜血管の拡張を認める。
5. 骨小体様色素沈着を認める。

41 我が国の社会的失明の原因で1位と2位の疾患はどれか。2つ選べ。

1. 緑内障
2. 白内障
3. 加齢黄斑変性
4. 網膜色素変性
5. 糖尿病網膜症

42 感染性角膜炎について正しいのはどれか。

1. 結膜嚢常在菌は起炎菌にならない。
2. 両眼に生じると角膜ジストロフィと呼ぶ。
3. 緑膿菌による角膜炎は急速に進行しやすい。
4. アカントアメーバ角膜炎は抗菌薬が著効する。
5. 発症の誘因として副腎皮質ステロイド薬点眼が最も多い。

43 先天無虹彩に合併しないのはどれか。

1. 眼 振
2. 緑内障
3. 水晶体偏位
4. 黄斑低形成
5. ぶどう膜炎

44 有機リン中毒でみられるのはどれか。

1. 縮 瞳
2. 網膜出血
3. 調節麻痺
4. 水平半盲
5. 角膜の色素沈着

45 身体表現性障害〈心因性視能障害〉について誤っているのはどれか。

1. 女性に多い。
2. 片眼性である。
3. 学童期に好発する。
4. 水玉状視野を呈する。
5. 光干渉断層計〈OCT〉所見は正常である。

46 Sturge-Weber 症候群でみられる所見はどれか。

1. 内斜視
2. 小眼球
3. 緑内障
4. 虹彩結節
5. 円錐角膜

47 上直筋麻痺と上斜筋麻痺に共通する眼球偏位はどれか。

1. 外 斜
2. 上 斜
3. 内 斜
4. 外方回旋
5. 内方回旋

48 頭位異常をきたさないのはどれか。

1. 眼瞼下垂
2. 潜伏眼振
3. 眼位性眼振
4. 外転神経麻痺
5. 滑車神経麻痺

49 静止位がなく振幅の大きい眼振に対する手術はどれか。

1. 後藤法
2. 水平4直筋大量後転
3. Anderson法
4. Kestenbaum法
5. Hummelsheim法

50 内直筋と外直筋とを上直筋付着部へ移動するのはどれか。

1. 甲状腺眼症
2. 固定内斜視
3. Brown症候群
4. Duane症候群
5. double elevator palsy

51 ロービジョンケアを行う際に適切でないのはどれか。

1. 共感的な態度で接する。
2. 患者の訴えを傾聴する。
3. 指示的な態度で接する。
4. 受容的な態度で接する。
5. 個々に合わせたニーズに対応する。

52 弱視訓練の効果判定で誤っているのはどれか。

1. 眼 位
2. 視 力
3. 立体視
4. 固視状態
5. 読み分け困難

53 内斜視の矯正効果がある眼鏡レンズはどれか。2つ選べ。

1. 二重焦点レンズ
2. 近視過矯正レンズ
3. 遠視低矯正レンズ
4. 乱視完全矯正レンズ
5. 基底外方プリズムレンズ

54 疾患と診断のための検査との組合せで誤っているのはどれか。

1. 視神経炎 ————— 動的視野検査
2. 外眼筋炎 ————— 大型弱視鏡検査
3. 甲状腺眼症 ————— 眼窩 MRI
4. 重症筋無力症 ————— 抗アセチルコリン受容体抗体価
5. 眼窩吹き抜け骨折 ————— 眼窩 CT

55 手術適応とならないのはどれか。

1. 乳児内斜視
2. 間欠性外斜視
3. 調節性内斜視
4. 恒常性外斜視
5. 部分調節性内斜視

56 斜視手術と副作用の組合せで誤っているのはどれか。

1. 外直筋後転 ————— 外転制限
2. 内直筋短縮 ————— 同側複視
3. 下直筋後転 ————— 下眼瞼後退
4. 上直筋短縮 ————— 内方回旋複視
5. 下斜筋前方移動 ————— 上転制限

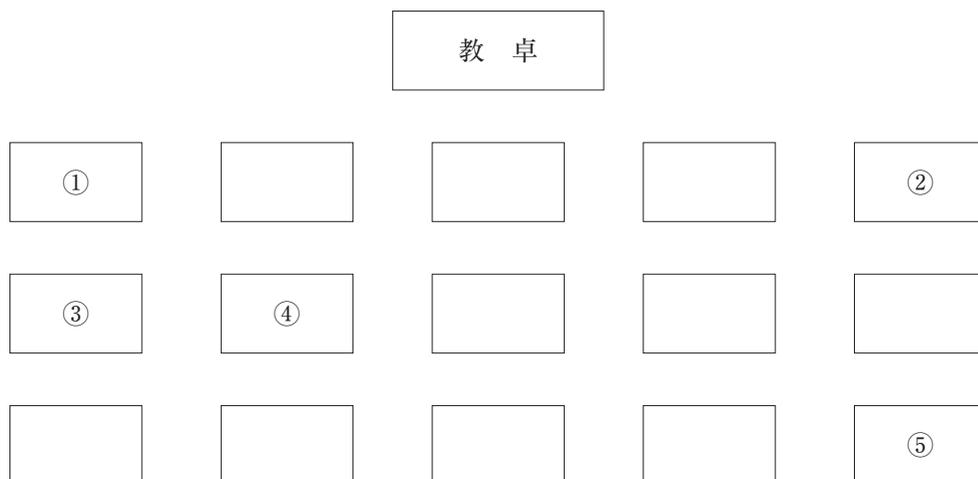
57 near penalization 法を 10 D の調節力がある弱視に行った場合、健眼の明視距離で正しいのはどれか。

1. 眼前 100 cm から眼前 33 cm
2. 眼前 80 cm から眼前 10 cm
3. 無限遠から眼前 33 cm
4. 眼前 33 cm のみ
5. 無限遠のみ

58 大型弱視鏡による融像訓練で抑制が起こりやすいスライドはどれか。2つ選べ。

1. 図形が複雑である。
2. 融像部分大きい。
3. 融像部分の色が濃い。
4. チェックマークが融像部分の内側にある。
5. チェックマークが融像部分から離れている。

59 学校における座席配置を図に示す。



病態とその患者に用意する座席の組合せで適切でないのはどれか。

1. 左 Duane 症候群 I 型 ————— ①
2. 左方向に静止位のある眼振 ————— ②
3. 右外転神経麻痺 ————— ③
4. 右下斜筋過動 ————— ④
5. 左 Brown 症候群 ————— ⑤

60 問題指向型診療記録で誤っているのはどれか。

1. 主訴は患者の言葉を記載する。
2. 患者の社会的状況の記録を含む。
3. 視能訓練士の主観的記録を作成する。
4. 問題点の共有は多職種連携につながる。
5. 視能評価に対応して視能矯正を計画立案する。

61 斜位近視で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 縮 瞳
2. 眼精疲労
3. 近見障害
4. 輻湊けいれん
5. 恒常性外斜視

62 麻痺性斜視の融像訓練で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 調節力を増強させる。
2. 抑制野を拡大させる。
3. 運動性融像の強化を行う。
4. 複視のあるむき眼位で行う。
5. 感覚性融像を安定化させる。

63 斜視弱視を生じないのはどれか。

1. 顕性斜視
2. 恒常斜視
3. 先天斜視
4. 潜伏斜視
5. 片眼斜視

64 右への顔の回転で症状が軽快するのはどれか。

1. 左上斜筋麻痺
2. 右 MLF 症候群
3. 左外転神経麻痺
4. 右 Duane 症候群 II 型
5. 右側方に静止位のある先天眼振

65 斜視特殊型で正しいのはどれか。

1. 甲状腺眼症では眼瞼下垂がみられる。
2. 外眼筋ミオパチーでは Graefe 徴候がみられる。
3. Brown 症候群では内上転障害がみられる。
4. Duane 症候群では外転時 upshoot がみられる。
5. general fibrosis syndrome では Bell 現象がみられる。

66 9歳の男児。右眼にボールがあたり、その後から物が2つに見えると訴えて来院した。上方視、正面視および下方視の写真(別冊No. 3)を別に示す。

障害されているのはどれか。

1. 内直筋
2. 下直筋
3. 外直筋
4. 上直筋
5. 上斜筋

別 冊

No. 3

67 19歳の男性。疲労時に視線が合わなくなると訴えて来院した。正面眼位および各眼遮閉時の写真(別冊No. 4)を別に示す。

この疾患について誤っているのはどれか。

1. 遮閉眼は内方回旋を伴う。
2. 頭位異常をきたすことが多い。
3. 1歳6か月～3歳で顕性化する。
4. 先天眼振に合併することが多い。
5. 上直筋のファーデン手術が適応となる。

別 冊

No. 4

68 24歳の男性。屈折矯正手術を受けてから眼が疲れやすくなったため来院した。視力は右0.5 ( $1.2 \times -0.50 \text{ D} \text{Cyl} -0.50 \text{ D } 40^\circ$ )、左0.1 ( $1.2 \times -3.50 \text{ D} \text{Cyl} -0.75 \text{ D } 40^\circ$ )、眼軸長は右28.4 mm、左28.6 mmであった。

行うべき検査はどれか。

1. ERG
2. VEP
3. 調節力検査
4. Titmus stereo test
5. ニューアニセイコニアテスト

69 77歳の男性。視力は右0.4 ( $1.0 \times -1.25 \text{ D} \text{Cyl} -0.75 \text{ D } 90^\circ$ )、左0.3 ( $1.0 \times -1.75 \text{ D}$ )、緑内障で定期的に視野検査をしていたが、今回、右眼の検査の途中で「検査を続けられない」と顎台から顔を離してしまった。

検者の対応で誤っているのはどれか。

1. 休憩を促す。
2. そのまま検査を続行する。
3. 検査の目的を再度説明する。
4. 「検査を続けられますか」と言葉を返す。
5. 検査中の姿勢が苦しくなかったかどうか尋ねる。

70 68歳の男性。数年前からの上下の複視を主訴に来院した。視力は右0.4(0.9×+1.25D)、左0.6(0.8×+0.75D)で、やや顎上げの頭位異常がある。大型弱視鏡検査の結果(別冊No. 5)を別に示す。

この患者の診断はどれか。

1. 左下直筋麻痺
2. 左上斜筋過動
3. 右下斜筋過動
4. 右上斜筋麻痺
5. 右上直筋麻痺

別 冊

No. 5

71 65歳の男性。最近、急に右眼が見えにくくなったため紹介されて来院した。視力は右0.3(矯正不能)、左1.0(矯正不能)。自宅近くの眼科を受診したところ右眼の眼底出血を指摘された。この患者の右眼眼底写真(別冊No. 6)を別に示す。

鑑別診断に有用な検査はどれか。2つ選べ。

1. ERG
2. 視野検査
3. 超音波Bモード
4. 蛍光眼底造影検査
5. 光干渉断層計(OCT)

別 冊

No. 6

72 65歳の女性。ヘアスプレーの飛沫が右眼に入り異物感を自覚して来院した。生体染色を施した前眼部写真(別冊No. 7)を別に示す。

診断はどれか。

1. 角膜潰瘍
2. 樹枝状角膜炎
3. 点状表層角膜症
4. 角膜上皮びらん
5. 角膜ジストロフィ

別 冊

No. 7

73 9歳の女児。他院で間欠性外斜視と診断され、手術目的で来院した。視力は右1.2(矯正不能)、左1.2(矯正不能)である。右眼固視による9方向眼位写真(別冊No. 8)を別に示す。

この患児に選択すべき術式はどれか。

1. 両眼外直筋後転
2. 両眼外直筋後転下方移動
3. 両眼内直筋短縮上方移動
4. 右眼外直筋後転と右眼内直筋短縮
5. 両眼外直筋後転と両眼下斜筋後転

別 冊

No. 8

74 12歳の女児。眼位異常を訴えて来院した。視力は右0.8(1.2×+3.00D)、左0.8(1.2×+3.00D)である。屈折矯正下で遮閉試験を行ったところ、遠見4Δ内斜位、近見18Δ内斜視である。裸眼では、遠見25Δ内斜視、近見35Δ内斜視である。

この患児のAC/A比[Δ/D]はどれか。

1. 3
2. 5
3. 7
4. 10
5. 13

75 47歳の男性。1年前の交通外傷の後から複視を自覚するようになったため来院した。大型弱視鏡検査での9方向むき眼位(別冊No. 9)を別に示す。

この患者に対する術式で正しいのはどれか。

1. Jensen 法
2. 原田-伊藤法
3. 上斜筋移動術
4. 下直筋耳側移動術
5. 水平筋上下移動術〈トリック手術〉

別 冊

No. 9

















